



まだまだ厳しい寒さを感じる今日この頃ですが皆様いかがお過ごしでしょうか。受験シーズン真っ只中ということで大変お忙しい日々かと存じます。こども英語教室を含め、次年度の習い事を決める大切な時期でもあります。皆様どうぞお身体、ご自愛くださいませ。

1 年度末の教材発送スケジュールについて

重要

各提携社様におかれましては、4月からの2013年度レッススタートに向け、3月下旬にかけて教材発注をご予定いただいていることと思います。

例年、ご協力をお願いさせていただいておりますが、3月下旬は全国の皆様から、教材の発注が一斉に行われる時期であることに加え、教材を保管している倉庫で棚卸が行われるため、**発注時期によっては教材のお届けが普段よりも遅れます**。予めご了承下さい。

継続・入会のお申し込みを早めに頂いたお客様に対して、「初回レッスンに教材が間に合わない」ということが無いよう、早めの教材発注にご協力下さい。

【お願い】

4月からの受講が決定している生徒分に関しましては、**出来る限り、3月22日(金)17:00まで**にご発注下さいますようお願い致します。

【発送スケジュール】

- ~3月21日(木)17:00までのご発注分 ⇒ 通常スケジュール通りの発送
- ~3月22日(金)17:00までのご発注分 ⇒ 3月26日(火)以降順次発送
- 3月22日(金)17:01~ のご発注分 ⇒ 4月2日(火)以降の発送(※)

3月22日(金)17:00までにご発注いただいた教材は初回レッスンに間に合うよう、3月25日からの週にはお届けをさせていただきます。

(※)3月22日(金)17:01以降に頂いたご発注に関しましては、場合によっては教材の発送が遅れる可能性があります。貴社の年間スケジュールにより、4月1週目よりレッスを開始する場合には、予め提携本部までご相談下さい。

ご理解とご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



2 Kids Basic コース受講費変更のご案内

再掲

昨年よりご案内申し上げます通り、2013年度より、**新Kids Basic コースにおきまして、受講費・教材費が変更**になります。下記、ご確認の程、宜しくお願い致します。



コース	キッズ(年少・年中・年長) 1回50分・全42回		ジュニア(小1~3) 1回60分・全42回	プレップ(小4~6) 1回60分・全42回
	ベーシック	アドバンスト		
受講費	5,775円/月	5,250円/月	5,775円/月	5,775円/月
教材費	16,710円	14,175円	16,710円	16,710円

GTEC Junior 受検料 1,785円(税込)

※毎年6月までに、ジュニアアドバンスト〜プレッププロGRESSコースに入会時、
受検会費毎月納付で受講している会員のみなさんが受検対象となります。

【新Kids Basicコース】

受講費(税込): 5,250円 ⇒ **5,775円**
教材費(税込): 14,175円 ⇒ **16,710円**

※受講費に関しましては、別紙添付の「**①2013年度受講費・教材費ピラ**」をご確認下さい。

直営教室用になりますので、こちらを下限に、次年度の料金設定をお願い致します。

※教材費に関しましては、別紙添付の「**②教材費一覧**」をご確認ください。

途中入会時の教材費、または重複パターンの教材費なども記載されておりますのでご確認下さい。

3 新Kidsコース教材販売についてのご案内

再掲

新Kids Basicコース教材の販売につきまして、再度、各資材の販売スケジュールや価格のご確認をお願い致します。

先生用教材・生徒用教材の価格につきましては、別紙添付の「**㊸2013年度新KB関連資材一覧(提携用最終版)**」をご確認ください。



【スケジュール】

月	日	内容
2012年 11月	6日～	◆販促資材販売中 ※詳細はweb教材発注サイト https://www.vlcm.net/ec/kodomoeigo/ をご覧ください
2013年 1月	10日～	◆体験教室セット到着(開校権利金に含まれるため、初回は1教室1セットを無料配布) ※ ◆先生用・生徒用教材発注可能 ≪先生用教材10,710円・生徒用教材16,710円≫
2月	25日 発送	◆LPセットお届け(開校権利金に含まれるため、初回は1教室1セットを無料配布) (レッスンプラン、コースガイド、ファイル、ファイルシール、KB振付DVDをお届け)
4月	2週目	◆新Kids Basicコース開講!

※2013年度新Kids Basicコース商品説明会及び実践会にご参加いただいた提携社様におかれましては、提携本部より、無料で体験教室セットを1月10日(木)よりすでに発送させていただいております。引き続き、2月25日(月)よりレッスンプラン・コースガイドセットを順次発送させていただきます。

※体験教室セット、レッスンプラン・コースガイドセット、および先生用教材・生徒用教材の内容詳細については「**㊸2013年度新KB関連資材一覧(提携用最終版)**」をご確認下さい。

4 各種計数管理報告書のご提出のお願い

本年度も残り約1カ月余りとなりました。つきましては、2012年度数値報告書のご提出をお願い致します。教室成長を数値から裏付けられるとともに、各提携社様と2013年度の募集計画について共有をさせていただくために、ご協力をお願いしております。

ご提出いただくのは次の2ファイルです。(フォーマットは本通信に添付したものをご利用下さい)

■添付ファイル

「**㊸2012年度営業計数管理表(御社名).xls**」

「**㊸2012年度在籍数管理表(御社名).xls**」

※9月以降に新規開校された提携社様は、9月以降からご記入下さい。

■提出先

提携本部アドレス

teikeihonbu@mail.benesse.co.jp

■提出期日

4月26日(金)までに提携本部宛に各種ファイルを添付し、メールでご提出ください。

5 2013年度用PA・PP コースWorkbook資材発注に関して

重要

2月号月例通信にて、2013年4月以降ご入会のお客様へ配布するPA・PPコースのWorkbookの発注をお待ちいただくようご案内をさせていただいておりました。

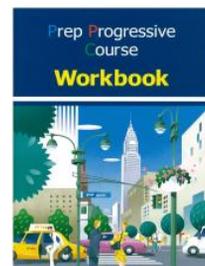
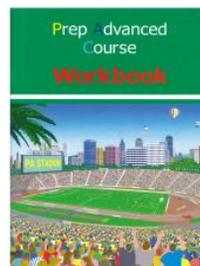
大変お待たせいたしました。本日2月20日(水)より、教材の発注が可能になりましたのでご案内させていただきます。本日より、これまで通りweb教材発注サイトにて、2013年度にご使用いただくPAとPPコースのWorkbookの(※PA・PPコース生徒用教材セットを含む)ご発注を再開下さい。

【経緯】

2012年度に使用しておりましたPAとPPコースのWorkbookについて、現場の先生方より「ページが外れやすく、使いづらい」とのご指摘を数多く頂いておりました。

そしてこの度、2013年4月以降にご使用いただくPAとPPコースのWorkbookについては、皆様により使いやすい形で製本をさせていただきます。

2月19日(火)まで倉庫入れ替えのお時間を頂戴しておりました。各提携社様にはご協力いただき、誠にありがとうございました。



6 しまじろう・Pipponキービジュアルに関するご案内

重要


多くの提携社様にご要望をいただいております。新Kidsコースチラシ作成用のしまじろう入り画像についてのご案内をさせていただきます。Kidsコース専用のキービジュアルとして、ご活用頂ければと存じます。

画像の使用をご希望される提携社様におかれましては、商標登録の関係上、新たに「覚書」の締結が必要になりますので、下記の流れに沿ってご対応下さいようお願い申し上げます。

(※締結に伴い印紙などご準備頂くものはございません。)



【キービジュアル画像】

手順	内容
① 使用許諾 申請	◆しまじろう・Pipponキービジュアルの使用をご希望される場合には、添付の「⑥しまじろう・Pipponキービジュアル使用申請書」をご記入の上、提携本部 (teikeihonbu@mail.benesse.co.jp) までメールにてご提出下さい。 ※次年度Kidsコースを開講する提携社様に限り。予めご了承ください。
② 覚書郵送	◆ご提出いただいた、申請書を元に提携本部より、しまじろう・Pipponキービジュアル使用に関する「覚書」を2通郵送させていただきます。 ※覚書の内容に関しましては、添付の「⑦キービジュアル覚書」をご参照ください。
③ 覚書返送 ↓ 締結	◆「覚書」の内容をご確認いただき、承諾いただける場合、記名捺印の上、1通を提携本部まで郵送にてご返送ください。ご返送いただきましたら、覚書の締結は完了です。 覚書到着後、画像データにてキービジュアルを順次送付致します。 ※締結日(覚書記入日)がキービジュアル使用可能開始日ではございませんのでご注意ください
④ 使用開始	◆キービジュアルの使用可能開始日は、 覚書締結後平成25年4月1日以降 です。 事前に画像データご確認の上、ご使用、ご活用下さい。

※使用には、必ず覚書の締結が必要になります。無断で画像を使用いただくことはできませんのでご注意ください。何卒、ご理解いただきますよう宜しくお願い致します。

7 教育情報

～長文読解問題 訳と内容理解の違いは？～

前回の教育情報では、「大学入試で求められる英語力の変化」についてお伝えしました。お伝えした内容の中でキーワードになっていたのが「入試英語の中心である長文問題で求められていることが訳から内容理解へ変化している」ということです。そこで、今回は「訳と内容理解の違い」についてお伝えしたいと思います。

最近の大学入試では和訳や英作文だけでなく、内容理解を問う問題が多く出題されるようになってきました。そんな中、高等学校の教育現場では、「訳すことはできても、結局本文が何を言っているのかをつかめていない生徒が多い」というお声をよく耳にします。そこで、今回は、高等学校の先生方が行った座談会の内容を通して、「訳と内容理解の違い」について、そして「**英文の内容理解力を育てる指導方法**」についてご紹介します。

■座談会内容

司会：先生方は普段のリーディングや英語 I の授業では、何をゴールに教えていらっしゃるんですか？

A先生：私は教科書の本文を完全に理解しきった状態にすることをゴールとしています。新出の語彙・文法の定着と本文の理解です。特に和訳を課すと、生徒がしっかりと文構造を理解しているかどうかがよくわかりますから予習として和訳を課して、生徒の理解度を確認しながら授業を進めています。

B先生：私もやはり教科書でしっかりと文法事項を理解させることを主眼において授業をしています。特に最近はやや基本的な文法事項が定着していない生徒も多いですからね。新しい文法事項や複雑な文構造の文章については、私も和訳を通じて丁寧に解説するようにしています。最近のセンター試験は、文法事項の理解も当然大事ですが、短い時間でたくさんの英文を処理しないといけないような形式に変わりつつありますよね。

C先生：確かに最近のセンター試験や入試の傾向は徐々に変わってきていますね。私は、教科書の新しいレッスンに入る時に、まずは辞書も何も使わずに読ませて、そこに書いてある内容について生徒に質問し、「大体どういことが書かれているのか」ということを考えさせています。入試でも初見の英文を辞書なしで読んで、大体の内容をつかまないといけないわけですから、そのトレーニングの一環でもあります。もちろん、入試で和訳が出題される大学もまだまだありますから、重要な語彙・文法・構文が含まれる文章はきちんと訳させます。

A先生：全訳は課さないのですか？

C先生：はい。あくまで訳を課するのは複雑な文構造の場合だけで、全訳はしていません。

A先生：それだと生徒からは、「他の部分も訳が欲しい」といわれませんか？

C先生：その場合は、意味のかたまりごとに前から訳させます。生徒には、前から読む癖をつけて欲しいと思っています。

B先生：前から訳すというのは面白いですね。以前に、3年生から速読を意識して英文を読ませるようにしたことがあったのですが、1・2年生の間に訳をとることが読解の中心になっており、「返り読み」をする癖がついていた生徒にとっては、英語の語順通りに前から読むのが難しいようですね。

A先生：確かに和訳は、文構造を理解させるのに効果的な一方で、それだけを目的にすると読みが遅くなる部分はありますね。あと、私が解説した訳をノートに書いて満足してしまっている生徒も多いように思います。

B先生：それは同感です。生徒にとっては、訳すことがゴールになっていて、内容を理解していないケースがありますね。以前、「復習でどんな勉強をした？」という質問に、「和訳を暗記した」という生徒がいて、私も自分の授業の進め方を少し考え直してみました。そこで今は、英文を読んだ後に、なるべく内容理解につながる活動を課すようにしています。例えば「段落ごとにタイトルをつけなさい」という活動です。いきなりでは難しい場合には選択肢を作っておきます。そうすると、生徒が「結局、筆者がこの段落で言いたいことって、どういうことなんだろう？」と、段落全体の概要を把握しながら細部も読むということを意識するようになりました。

C先生：「訳すこと」と「内容を理解すること」は、違いますよね。私も、英文の内容を理解したかどうか確認するために、内容について英問英答するための質問を毎回作っています。(※参考資料1)質問自体は簡単なものなのですがそれに答えるには英文の表現を使わないといけません。実はそれがもうひとつの狙いです。英文に出てきた表現をこの英問英答の中で使わせることで定着させます。

7 教育情報～つづき～

最終的には「英文に書かれている内容の要約を英語で書く」ということを目標としていますが、生徒の力がまだ追いついてないうちはハードルが高く、書けないことでやる気を失わせてしまいます。したがって、まずは日本語で書かせたり、あるいはとにかく絵や図を使わせながら、段落で書かれた内容を表現させます。「内容の見える化」をさせるということですね(※参考資料2)。そして、これに慣れてきたら英語でサマリーを書かせる活動にシフトします。こういう活動を続けていると、生徒はかなり「内容理解」を意識して読む癖がついてくると感じています。

B先生：「訳して終わり」ではなく、「読んだ後に、出てきた表現を使った活動をさせる」ことで、生徒の「読み方」が変わり、「結局本文が言っていることは何なのか」を意識して読むようになるわけですね。

C先生：そうです。特に良い素材であれば、内容理解を問う活動がより一層生きてきますし、生徒も前向きに取り組んでくれるようになりますよ。

先生方の座談会から、「訳と内容理解の違い」と「内容理解する力の育成方法について」、読み取られたのではないかと思います。現実の大学入試でも、センター試験、国公立大学の個別試験、私立大の入試でも「訳をとる問題」から「内容理解を問う問題」へと変化してきています。また、前回の教育情報でもお伝えしたように、内容理解の先にある判断して行動をする力を問う方向へ変わってきています。また、高等学校の入試に関しても、新学習指導要領1年目の2012年度の中学1年生が受験の時に、大幅に変わるのではとされておりま

■先生方が作られた授業プリント

参考資料 1

★内容についての
シンプルな質問
★本文中の表現を使って
答えられる質問

Question

- ① Why did the boy go to Alice's party ?
- ② What was the boy's mother worried about ?
- ③ Why did the boy change clothes ?
- ④ How does the boy feel now ?

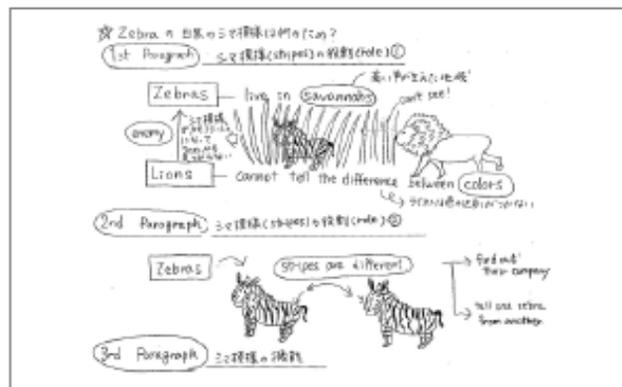
参考資料 2

★枠の中に、絵や矢印を
使いながら、本文に
書かれていたことを
まとめさせる。

「内容の見える化」をしてみよう！

「内容の見える化」とは、文章で書かれた情報を、図式化してまとめること。

- ①本文の論旨や概要が一目でわかる
 - ②作文の論旨展開を作成するのに役立つ
- というメリットがある。早速、今回のレッスンを「見える化」してみよう！



8 現場レポート最前線！

今月の現場レポートは、株式会社エスビジョングループ様が、宮脇書店様とコラボして開催された英語イベントについてレポートさせていただきます。昨年には、弊社の国語力プログラム「グリムスクール」※のイベントも開催されており、地域のお客様へ向けての告知イベントとして、それぞれ大いに盛り上がったようです！

今回のイベントには提携本部の千葉も参加させていただきました。当日のイベントの様子をエスビジョングループのインストラクター金田葉先生に伺っております。

今後の集客・告知イベント企画にぜひご参考いただければと思います。

※小学校2年生から6年生までを対象にした「国語力」を養うプログラムです。読解力や表現力を鍛える楽しいカリキュラムを通して、読書が得意になり、すべての学力の土台である「国語力」が高まります。自ら、いろいろなジャンルの本を読み、内容について思考できるような深い読み取りができるようになります。

さらに詳しいプログラム内容については弊社HPをご覧ください。
<http://grimm-school.com/>

こども英語月例通信 初登場!?!



▲ヨッシャー



▲よむたん

ベネッセグリムスクール

2月初旬、和歌山にある《宮脇書店》という書店にご協力頂き、そちらのカフェスペースをお借りしてイベントを実施しました。

宮脇書店では、毎月第3日曜に絵本の読み聞かせ会を開催されていて、毎回多くのこども達に参加されています。今回のイベントに関しては、この絵本の読み聞かせ会の際にチラシを配っていただいたり、お店にポスターを貼っていただいたりして、キッズとジュニアの2コースで合計20名弱のこども達が参加してくれました。(英語に先駆けて12月には、グリムスクールのイベントもさせていただき、こちらも30名弱のこどもたちにグリムスクールを知っていただける良い機会となりました。)

今回のイベントでは、ベネッセのLPをアレンジしてオリジナルプランを作りました。

キッズは、ピポんに英語で挨拶、そして『The Enormous Turnip』を題材に、野菜の名前を言ったり、皆で協力して畑の中からTurnipを抜いたり・・・と体を動かしながら英語を楽しめるよう、野菜も本物を使いリアル感を出しました。

また、ジュニアは、普段のレッスンと同じく、お話・チャンツ・ゲームの流れを意識し、『Brown Bear』を題材に、色と動物のチャンツをアカペラで言ったり、グリムスクールの作戦をアレンジした《投げてのつけてAnimal Ver.》にチャレンジしました。

このイベントでは、ベネッセこども英語教室の素晴らしい点でもあるAll Englishを徹底し、イベント色を強めるため、“英語しか話さない人”として、千葉さんに急遽レッスンのメインパートを担当して頂きました。

(千葉さん、本当にありがとうございました！)

初めは、英語しか話さない千葉さんを前に、「???」とおそろおそろだったこども達も、時間がたつごとに前のめりになり、自然と千葉さんが話す英語に「うん、うん」とうなずくようになっていきます。最後のゲームタイムには、「Carrot!」「Tomato!」「Purple cat!」と英語が口について出るほどまでになっていました。

書店でのイベントという事で、普段の体験レッスンよりも気軽に参加頂けたようです。

イベント中には、こども達の声を聞いて様子を見に来た方もたくさんおり、そうした方にも、体験教室の案内を持って帰って頂けるよう準備をしていました。

実際にこのイベント後、教室での体験を希望されるお問合せも入っています。

また実施する際は参加したい！との嬉しい声も頂いており、今すぐの体験・入塾には繋がらなくても、認知度UP、地域のこども達との関係づくりのために、ぜひ定期的に実施していきたい！と思っています。

株式会社エスビジョングループ 金田 葉

8 現場レポート最前線！～つづき～



イベントに参加させていただき、3歳児の好奇心とやる気が溢れているエナジーを感じてきました。LPがしっかりできているので、こども達は一時も気持ちが離れずレッスンに集中し、英語をたくさん聞いて、体感し、英語のみでコミュニケーションをとることが出来ました！私は英語しか話せないというPIPPONのような設定でこども達はもちろん保護者の方とも接していたので、イベント後に「ナオミ先生は何人なのですか？」と他の人に尋ねていらっしやる姿を見て、役割をしっかり果たせたなど感じられ、非常に嬉しかったです。

英語のみのレッスンにも関わらず、こども達が「楽しい！」と言ってくれたことは、非常に頼もしく、私にとっても得難い経験となりました。エスビジョングループのインストラクターの皆様、イベント実施までの準備、そして参加される方への事前の丁寧なご対応さすがでいらっしやいました。皆様のホスピタリティ溢れるサポートがあったおかげでオールイングリッシュでの楽しいこども達との時間を作ることが出来ました。

参加させていただき本当にありがとうございました！

(提携本部：千葉直美)

連絡先

株式会社 ベネッセコーポレーション
こども英語教室事業部 提携本部

〒163-0411
東京都 新宿区 西新宿2-1-1
新宿三井ビルディング
TEL:03-5320-1162

(受付時間 平日 10:00～12:00・13:00～17:00)
FAX:03-5320-1230

【E-mail】

提携本部(代表窓口)
teikeihonbu@mail.benesse.co.jp

高橋 勝
masaru@mail.benesse.co.jp

今村 健吾
imamura@mail.benesse.co.jp

千葉 直美
naomi7@mail.benesse.co.jp

高岡 和美
kazumi.t@mail.benesse.co.jp

【WEB】

Benesseこども英語教室HP
<http://www.pippon.com/>

先生サイトHP
<https://benesse-kodomo-eigo.dweblink.jp/>

Benesse教育情報サイト
<http://benesse.jp/index.html>

web教材発注サイト
<https://www.vlcm.net/ec/kodomoeigo/>